

70年迎えさらに進む

辺野 淵
総合病院

ぶれない「地域密着」



土屋敦理理事長

同院は現理事長の父である章氏が開院し、同じく医者であった妻と二人三脚で地域医療を支えてきた。開院当初は往診方バを載せた自転車をこぎ、往診にも力を注いだ。高度経済成長期の相模原で地域に密着して人々の健康を支えた「赤ひげ先生」だ。

淵野辺総合病院が8月で開院70周年を迎えた。1954年、桑畑が広がり、まだ砂利道だった淵野辺の地に故・土屋章氏が産婦人科を中心とした木造2階建ての病院を開院した。以来、患者のニーズに合わせて診療科を増やしてきた。開院当初から一貫して「地域に根差した病院」としてさらに歩みを進める。

共生と至誠

同院は地域の医療・福祉施設と密接に連携し、中小施設には抱えない領域を補完する役割を担っている。高度な医療を必要とする患者の受け皿となり、改善が見られた患者を中小施設に再度誘導する。「共生と至誠」を理念に掲げ、地域の人や施設とともに歩み、地域



開院当初の病院玄関（上）と外観（下）
（上）「愛語能く廻天の力あり」という言葉が上手によく知り「もう少し頑張れ」「困っている」とは？」など緊張を取り除く言葉「愛語」をかけることでリラックスして、身体の緊張を取ることが痛みを和らげることもできます。技術だけでなく愛語、つまり慈しみの言葉による動きの包容力を育むことも重要。職員が明るく楽しく働けるような職場作りにも取り組んでいます。

の人の健康のため、日々誠実に取り組んでいる。超高齢社会を迎えた今、土屋理事長が地域に必要だと考えるのは高齢者のスムーズな受け入れと健康維持。相模原市には老人ホームなどの高齢者向け施設が比較的多く、その分、医療を必要とする高齢者も多い。たくさんの高齢者に質を落とさず医療を提供できるか否かが肝となるなか、来年度「地域包括ケア病棟」を新たにオープンする。入院治療後に病状が安定した患者に対し、リハビリや退院支援を提供する。病状の各ステージ

に同院が一貫して対応する体制を作ること、患者のスムーズな社会復帰を支援する。

保健・医療・福祉

淵野辺総合病院の運営母体、医療法人社団相和会が目指すのは「保健予防・医療・介護福祉」を三本柱とした地域住民の総合的な支援だ。淵野辺総合病院での医療の提供に加え、健診センターの運営による保健予防、介護老人保健施設の運営や訪問看護などによる介護

新規開設 地域包括ケア病棟

在宅復帰を積極的に支援

来年度中の開設を目指す「地域包括ケア病棟」の準備が着々と進んでいる。「相模原総合健診センター」を古淵に移転し、移転後の建物を病棟として改修する。地域包括ケア病棟は、入院治療後に病状が安定



現相模原総合健診センターを改修する

てきた病院の創始者の先見の明が今に生きる。土屋理事長も未来を見据える。「これからはこれまでの70年と大きく変わる。地域のニーズと社会の変化に合わせ地域に寄りそった病院を目指す」

切れ目のない 地域医療を

淵野辺総合病院の急性期病棟だけでなく、地域の開業医や介護老人保健施設などからも患者を受け入れる。ゴールデンウィークなどの連休中の発熱などにも対応する。切れ目のない地域医療を目指し、地域の人々の健康を包括的に支える。「地域密着」「共生と至誠」を掲げ、70年という実績を積み重ねた同院だからこそ実現可能な病棟だと言える。

地域医療を支える 人材募集

看護師/看護助手

地域包括ケア病棟の開業に伴い、動きも募集中。職場の雰囲気や和気あいあいとしているのが特徴で、その秘訣は「職員間のハート」を指す。土屋院長の「職員間のハート」を指す。土屋院長の「職員間のハート」を指す。土屋院長の「職員間のハート」を指す。

もともとあった10床の地域包括ケア病棟に新たに20床を加え、「病棟」への格上げを実現した。合計30床で患者を迎える。事務局長の大木博之氏は「地域の方に少しでも受け皿を増やしていきたい」と話す。

病棟、透析、手術室それぞれで看護師を募集している。同院は「前の職場が合っていないから、出産などでフラクがある方は、まずは相談を」と呼びかけている。完全週休2日制で生活リズムを整えることも可能。看護師免許を持つ経験者が対象だ。資格が無くても「看護助手」も資格がなく未経験でも働ける看護助手も募集している。勤務時間も相談できる。入院患者の食事の配膳や介助、おむつ交換、着替えの手伝いなど、看護師の指示を受けながら業務を行う。

和幸 田良
院長 世良

「愛語能く廻天の力あり」

安心できる病院へ

この度、淵野辺総合病院は地域の皆様のおかげで開院70周年を迎え、歩みを進めています。女闘りニューアルや「地域包括ケア病棟」新設など、皆様にとってよ

り快適で利便性のある病院に向けてこれからも進歩を続けてまいります。先生からもらった言葉「私は、医者である父が」の先生が教えてくれたの



が「愛語能く廻天の力あり」という言葉です。相手をよく知り「もう少し頑張れ」「困っている」とは？」など緊張を取り除く言葉「愛語」をかけることでリラックスして、身体の緊張を取ることが痛みを和らげることもできます。技術だけでなく愛語、つまり慈しみの言葉による動きの包容力を育むことも重要。職員が明るく楽しく働けるような職場作りにも取り組んでいます。

明るい玄関で患者迎える

進む院内リニューアル



玄関内装イメージ（上）、外装イメージ（下）
その一つが

「入ってきたときにホテルみたいなリラックスできる病院になることができれば」と話す。見た目を要するだけでなく、病院を訪れた人の心に心地良い言葉が溢れた空間も目指す。

| 看護助手(常勤) | 看護師(常勤) |
|---|---|
| 仕事内容 内科、整形外科病棟での業務 | 看護師業務 |
| 資格 未経験でも可 | 看護師免許、経験者 |
| 給与 月給202,000円～ | 月給244,700円～ |
| 時間 7:00～20:30の7時間45分勤務 16:30～9:00(早番・遅番あり、2交代制) | 病棟 8:30～17:15 16:30～翌9:00 ※2交代制 透析 7:30～16:15 11:45～20:30 ※シフト制 手術室 8:30～17:15 オンコールあり |
| 待遇 昇給1回、賞与年2回、社保完備、財形貯蓄、時間外手当、通勤手当(上限有)、退職金制度 | |
| 応募 メールまたは電話連絡のうえ、履歴書・免許の写しを送付してご来院ください | |
| 担当: 総務課 ☎042-754-3700 ✉saiyo@sowa.or.jp | |